令和３年度　江戸川区立西小松川小学校　学校関係者評価　最終評価用報告書

学校教育目標	○考える子　○やりぬく子　○明るい子 『自分事として捉え、人や場とつながる児童を育む学校』 ～共通理解を図り、繰り返し取り組むことを通して～	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	○信頼される学校 ○学ぶ喜びを知る児童の育成 ○良さや可能性を伸ばす教育の推進
前年度までの学校経営上の成果と課題	＜成果＞　・「道徳」の校内研究を通した、教員一人一人の授業力向上。　・若手教諭の人材育成や児童指導力や保護者対応力の向上。 ・巡回指導等の関係機関との連携の深化と指導力の向上。 ＜課題＞　・にしこスタンダードを基にした、学習規律の徹底と共通した授業の展開。　・ICTの積極的活用と情報教育についての共通理解。 ・要配慮児童への共通理解に基づいた円滑な対応や健全育成を図るための関係機関との連携。		

教育委員会重点課題	取組項目	評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価			学校関係者評価		来年度に向けた改善策
					取組	成果	成果と課題	評価	コメント	
いきいきと学ぶ学校づくり	確かな学力の向上	・「確かな学力向上推進プラン」の実施・改善や補習の実施などによる指導の充実と授業力の向上 ・「各教科等の連携教育プログラム」による連携の充実	・全校漢字計算テストの実施と分析 ・委託業者による放課後補習教室の実施 ・eライブラリーの活用 ・にしこスタンダードを活用した授業改善	・漢字テスト、算数ベーシック診断テスト全員実施と分析…年間3回　達成率8割以上 ・各学級4～5名の児童を対象に、毎週1回放課後補習教室を実施 ・Eライブラリーの活用…全学年 ・月1回の学力向上委員会において、にしこスタンダードの見直しと改善を図る。	B	B	○ベーシックドリル診断テストの継続的な活用と各学年平均点の向上 ○毎週のeライブラリの活用が9割以上。 ●放課後補習教室の児童の取り組みについての課題の共有 ●にしこスタンダードの確立と定着	A	児童の基礎的・基本的な学力を身に付けさせる努力をしている。	・ベーシックテストの達成率9割を目指す。 ・eライブラりの活用は10割を目指す。
	読書科の更なる充実	・読書を通じた探究的な学習の充実 （読書科ノートの活用、資料の収集の仕方や記録の取り方の指導、自己の考えをまとめ表現する方法の指導、朝読書と1単位時間の授業との関連付け、他教科との関連等） ・学校図書館の整備、学校図書館を使った授業の充実	・購入した本を活用した計画的な実施 ・中央図書館や保護者ボランティアによる本の読み聞かせの実施 ・国語科での音読指導の充実	・学習機能としての図書館活用、児童の利用率の向上…全校児童の9割以上の利用 ・中央図書館による読み聞かせを全学年、年1回以上実施、保護者ボランティアの読み聞かせを全学年、年3回以上実施 ・月1回「今月の詩」を配布し、音読指導に生かす。	B	B	○図書委員会を中心とした本の紹介活動を通して、児童の図書室の利用率の向上が図れた。 ●音読の効果的な指導方法と内容の精選	B	読書が好きになるような活動を増やしてほしい。	公共施設の図書館と連携を図ったり、図書委員の活動を充実させたりし、図書室の利用回数を増やし、探究的学習に生かす。
	体力の向上	・体育の授業や休み時間における全校運動遊びなど主体的な運動の実施による運動意欲の向上	・体育学習スタンダードを活用した授業改善 ・運動遊びの計画的な実施 ・短縄、長縄、ランニング月間の実施	・体育学習における校内研修を年3回実施する。 ・運動遊びを毎週1回実施 ・短縄、長縄、ランニング月間の実施…各年間1回（期間：1か月程度） ・月1回の体力向上委員会において、体育学習スタンダードの見直しと改善を図る。	B	B	○全校共通の準備運動、整理運動の実施 ●感染症拡大の中でもできる活動内容の工夫、持続性 ●体育学習スタンダードの確立	B	・体力向上につながる学習活動を充実させている。 ・感染対策を講じた体育の学習を進めてほしい。	体育学習スタンダードを確立させ、日常の体育学習の充実を図る
	オリパラ教育の推進	・「オリンピック・パラリンピックレガシー創造プラン」に基づく取組、「学校2020レガシー」の設定やオリパラコーナーの充実	・教育プログラムを活用した出前授業の実施 ・オリンピック、パラリンピックの調べ学習の実施	・講師招聘（短縄跳び）…年間1回 ・オリンピック、パラリンピックの調べ学習の実施…全学年	B	B	○オリンピック、パラリンピックの調べ学習を通した、世界の国々の文化の理解 ●自国の文化のさらなる理解	B	国調べの学習が自主学習にもつながっている。	日本文化と外国文化の違いを理解するための活動を授業に取り入れ、
	外国語教育の推進	・授業力の向上とALTの効果的な活用	・外国語主任が中心となり、ALTの効果的な活用等についてのミニ研修会を実施	・校外研修における伝達講習およびミニ研修会の実施…年間2回	B	B	○英語ボランティアを招き、充実した授業の実施 ●ALTの効果的な活用	B	楽しく外国語教育が実施できている。（保護者）	ALTの効果的な活用にうついて研修会等で情報共有する
	健全育成に向けた取組の強化	・いじめ・不登校の未然防止に向けた魅力ある学校づくりの取組の充実 ・チルドレン・サポートチームや生活指導連絡協議会の活用	・月1回のいじめ防止対策委員会や生活指導夕会による情報共有を行い、いじめや不登校の未然防止と早期解決に努める。 ・必要に応じて、ステップサポーターやSSW等の関係機関との連携	・生活指導夕会の実施…毎週1回 ・いじめ調査の実施（年間3回）	B	B	○生活指導夕会やいじめ防止対策委員会による情報共有を通して、いじめの未然防止や早期解決 ●支援が必要な児童に対する関係機関との連携と保護者との情報共有	B	学校は家庭と連携をとって児童の健全育成に努めている。	生活指導夕会の充実や引継ぎ資料の作成を通して、支援が必要な児童についての情報共有に努めていく。
特別支援教育の充実	特別支援教育の推進	・校内委員会の活性化を図ることなどによる指導・支援の充実 ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・副籍交流、交流及び共同学習の充実	・SC、巡回指導員、特別支援専門委員、専科と連携した児童理解 ・個別指導計画に基づく指導力の向上 ・QUテストの実施と分析	・巡回指導教諭と面談…年間3回 ・配慮を要する児童の個別指導計画の作成と改善…各学期1回 ・QUテストの実施と分析、授業改善…年間3回	A	A	○巡回指導教員、特別支援コーディネーター、心理士、担任、保護者との連携	A	校内で共通理解が行われている。 困ったときの相談体制ができている。	校内委員会における引継ぎ資料の見直しや、個別指導計画の改善を図る。
教員の資質向上	教員研修の充実	・学習用タブレットを活用した授業実施に向けた研修	・情報教育リーダーやラインズ等と連携し、研修会を実施する。	・ICT研修…年間3回 ・外国語単元のICT活用の実施…毎時間	B	B	○情報教育リーダーを中心に、タブレットの活用方法についての情報共有 ●オンライン会議の効果的な活用	B	オンライン授業を積極的に実施してほしい。そのための学習環境を整えてほしい。	オンライン学習に向け、ICT環境を整え、情報教育委員会を新たに設置する。
	若手研修会の充実	・OJTの計画を基に、具体的な教育実践を取り上げた事例研修	・OJT主任を中心に計画を作成し、管理職、主幹教諭、主任教諭、が講師を務め、若手に向けた研修を実施する。若手教諭も講師となる回も設ける。	・OJTにおける研修を年22回実施、若手教諭の授業研究を各1回ずつ実施	A	A	○OJTの計画的・意図的な実施による若手教員の意識の向上	B	担任の先生が児童と一緒に、元気に外遊びに励んでいる。	OJTの成果の見える化を図り、担当の教諭以外も積極的に関われるようにする。
特色ある教育の展開	小中連携教育の推進	「小中連携教育構想」及び「各教科等の連携教育プログラム」による連携の充実	・教員交流、児童生徒交流、地	・教員交流…年間3回・児童生徒	B	B	○児童の交流を通して、進学への意識の向上 ●感染症に注意した教員同士の連携強化	B	連携内容の理解・啓発ができている（5・6年保護者）	地域交流の内容と参加の仕方を検討し、各教科の連携教育プログラムをさらに充実させる。